

〈 校章の由来 〉

1. 構図の意味

(1) 中央の三角形について

手良を囲む高い山脈

- ①中央アルプス
- ②南アルプス
- ③伊那山脈（南アルプス）

同時に、その麓に広がる手良の地形

- ①中坪
- ②野口
- ③沢岡（下手良、八ツ手）を表す。

(2) 外側の木の葉について

たくさんのナラ、クヌギ等の広葉樹の葉、または山村手良の産物である桑の葉を象徴したものである。

(3) 上記のような山と樹木に囲まれた清らかな環境の中で、大いに勉学に励もうという意味が込められている。



2 制定の経過

かつて、旧手良小学校には朝日をバックにした手良の「手」の字を配した徽章があったが、いつしか使われなくなった。

戦後、新制中学校発足時に、中学生の中から校章制定の声が高まり、昭和25年の春、徽章委員会が設立された。

そこで、中学生と小学生（5、6年）から校章の図案を募集し、集まった募集作品の中から選考して、上記のような図案が選ばれ、本校の校章として制定されるに至った。

3 その他

図案作成者は、昭和46年度手良小学校PTA会長山岸久夫氏の実弟で、当時、手良中学校の生徒であった。（中坪出身）